

6 歩行者の交通事故

全交通事故の発生件数が減少傾向にある中で、歩行者の交通事故件数、割合は横ばいです。
歩行者は交通事故の衝撃を直接受けてしまうので、事故に遭うと重傷化しやすいのが特徴です。

- ★歩行者側の「信号無視」や「飛び出し」といった交通違反が交通事故の原因になっている場合があります。自分の身を守るためにも交通ルールを守りましょう。
- ★夜間外出する際は、明るい服装を心掛け、反射材や携帯式のライトを活用しましょう。

歩行者事故発生状況 (単位：件、人)

	H28	H29	H30	R1	R2
全事故件数	1,922	1,798	1,651	1,485	1,320
発生件数	244	296	247	232	250
死者数	9	9	14	4	6
全事故に占める歩行者事故の割合	12.7%	16.5%	15.0%	15.6%	18.9%

※令和2年中に発生した歩行者事故のうち、7件は歩行者側に交通違反が認められました。



7 自転車の交通事故

自転車の交通事故発生件数は、全体としては減少傾向にありますが、全事故に占める自転車事故の割合は横ばいです。

自転車側に交通違反がある場合もあり、警察に届出がなされない事故も発生しています。
健康志向・環境志向の高まりや新型コロナウイルス感染症の影響で、自転車利用者が増えてきている中、自転車利用者の交通ルールの遵守、マナーの向上が求められています。
自転車乗用者が加害者になる事例が全国各地で相次いでおり、高額な賠償が発生することもあります。

- ★自転車は車両の仲間であり、加害者になる場合もあります。
- ★正しい交通ルールを守り、万が一に備えて損害保険に加入しましょう。

自転車事故発生状況 (単位：件、人)

	H28	H29	H30	R1	R2
全事故件数	1,922	1,798	1,651	1,485	1,320
発生件数	319	275	259	234	228
死者数	3	1	6	1	0
全事故に占める自転車事故の割合	16.6%	15.3%	15.7%	15.8%	17.3%
対歩行者事故件数	6	7	6	2	4



8 交通事故の無い安心・安全なまちづくり

新潟市では、交通事故の発生件数等は減少傾向にあります。しかし、未だ多くの方が交通事故の被害に遭っています。

悲惨な交通事故を1件でも減らすためには、みんなで交通安全意識を高めることが大切です。

そのためには、大人が子ども達に交通ルールの大切さを自ら示し、教えていく必要があります。家庭や学校、職場から地域へ、交通安全の輪を広げていきましょう。



令和2年

新潟市 交通事故概況

安心・安全な新潟市を目指して

～歩行者被害の交通死亡事故が多発～

新潟市内では、令和2年中の交通事故件数は前年と比べて減少しましたが、11の方が亡くなり、そのうち6の方が歩行中でした。

ドライバーのみなさんへ

横断歩道は歩行者が優先です。歩行者・自転車を早めに発見して速度を調節し、確実に安全を確認して交通事故を防ぎましょう。

歩行者・自転車のみなさんへ

自ら交通ルールをしっかり守り、交通事故に遭わないようにしましょう。

みんなで、悲惨な交通事故を無くし、
安心・安全な新潟市を実現しましょう。



 新潟市

市民生活部 市民生活課 安心・安全推進室 TEL 025-226-1113

〈各区交通安全担当課〉

北区 区民生活課 (025-387-1295)	秋葉区 地域総務課 (0250-25-5470)
東区 総務課 (025-250-2720)	南区 地域総務課 (025-372-6431)
中央区 総務課 (025-223-7064)	西区 総務課 (025-264-7120)
江南区 区民生活課 (025-382-4254)	西蒲区 地域総務課 (0256-72-8143)

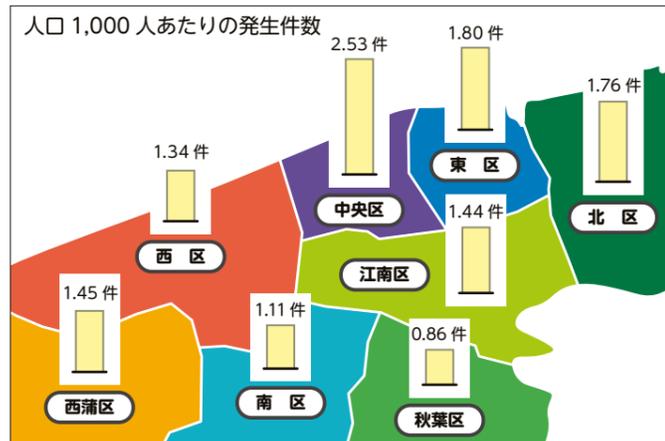
1 新潟市の交通事故発生状況

新潟市では、令和2年中に1,320件の交通事故が発生し、1,515人が負傷、11人の尊い命が失われました。

市内の交通事故発生状況（令和2年）

(単位：件、人)

区別	発生件数	死者数	負傷者数	重傷者数
北区	129	1	151	30
東区	245	2	275	40
中央区	442	1	515	75
江南区	99	0	120	15
秋葉区	66	1	70	19
南区	49	2	53	7
西区	209	2	235	41
西蒲区	81	2	96	14
全市	1,320	11	1,515	241



交通事故発生状況の推移

新潟市内の交通事故件数と負傷者数は15年連続で減少し、いずれも平成28年からの5年間で、3割以上も減少しています。しかし、一歩間違えば死亡事故になっていた重傷事故も多く発生しており、負傷者数に占める重傷者数の割合も増加傾向にあります。

過去5年間の交通事故発生状況

(単位：件、人)

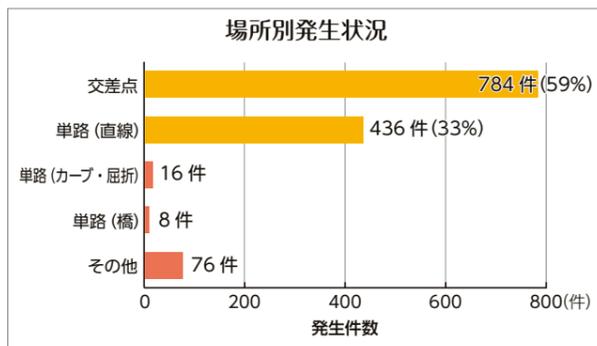
	H28	H29	H30	R1	R2	増減率
発生件数	1,922	1,798	1,651	1,485	1,320	△11.1%
死者数	21	13	27	11	11	0.0%
負傷者数	2,271	2,102	1,949	1,760	1,515	△13.9%
重傷者数	317	305	261	253	241	△4.7%
負傷者数に占める重傷者数の割合	14.0%	14.5%	13.4%	14.4%	15.9%	

※重傷者とは、交通事故で1ヶ月(30日)以上の治療を要する傷害を負った者をいう。

2 交通事故の発生場所と時間帯

交通事故の発生場所は、交差点やその付近が全体の約59%を占め、その半数が出会い頭事故です。交差点以外での事故はわき見運転等が原因の追突事故が目立ちます。また、時間帯別では交通量の多い8時から12時、16時から19時の間に多く発生しています。

★朝の通勤、通学時間帯や、夕方の帰宅時間帯は交通事故が多発する傾向にあります。

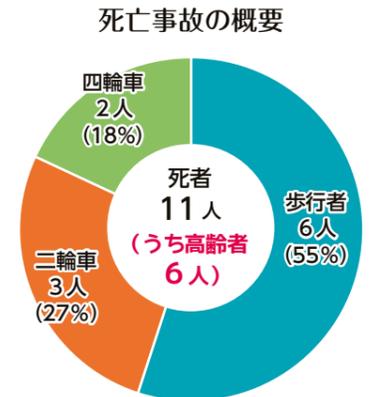


3 死亡事故

亡くなった11人のうち6人が、65歳以上の高齢者でした。状態別では、歩行中に被害に遭われた方が半数を超え、全体の約55%と高い割合を占めます。

また、四輪車・二輪車乗車中の5人のうち、2人が自損事故でした。対歩行者・自転車事故の原因の多くはドライバーのわき見運転や考え事等の漫然運転です。

- ★ドライバーのみなさんは、ハンドルを握ったら運転に集中し、ゆとりを持った運転を心掛けましょう。
- ★横断歩道は歩行者が優先です。歩行者や自転車を発見したら必ず止まりましょう。

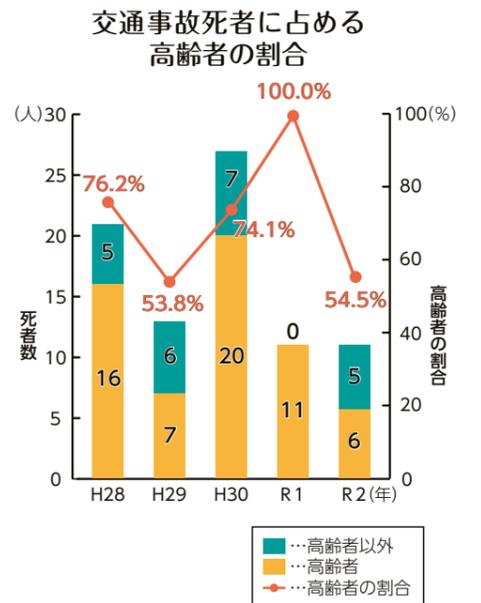


4 高齢者の交通事故

高齢者事故件数は減少傾向ですが、全事故に占める割合は年々増加しています。

高齢者加害事故は、発生件数は減少しましたが、全事故に占める割合は増加傾向にあります。

- ★運転に不安がある方は、なるべく運転を控えましょう。
- ★慣れた道を通る 交通量の多い時間帯は避ける 明るい時間帯に運転する といった補償運転をしましょう。



高齢者事故の発生状況		(単位：件、人)				
		H28	H29	H30	R1	R2
全事故件数		1,922	1,798	1,651	1,485	1,320
高齢者事故		691	670	639	587	563
全事故に占める割合		36.0%	37.3%	38.7%	39.5%	42.7%
高齢者加害事故		404	393	385	369	334
全事故に占める割合		21.0%	21.9%	23.3%	24.8%	25.3%

5 子どもを交通事故から守ろう

令和2年中、子ども(中学生まで)の交通事故は72件発生し、82人が負傷しています。

未就学児は、車両同乗中の事故が9割を超えます。小学生、中学生になると、歩行中や自転車乗用中の事故が増えます。これは行動範囲が広がり、事故に遭う可能性が高くなるためです。

- ★「道路で遊ばない、道路に飛び出さない、交差点では必ず止まって安全確認をする」といった基本的な交通ルールを守りましょう。
- ★子ども達は大人を見ている。かけがえのない子どもの命を守るため、大人が正しい交通ルールを守り、見本となって教えてあげることが大切です。

